

図書館員の心に残った本

皆さんが利用する図書館で働いている人たちは、どんな本や分野に興味や関心を持って読書をしているのでしょうか。カウンターやフロアで利用者をサポートするスタッフ、本の整理や分類をしているスタッフ… 図書館長も！獨協大学図書館で働くメンバーがこの1年の間に読んで心に残った本のなかから、おススメの本を厳選して、解説と共に紹介します。

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
3万冊の本を救ったアリーヤさんの大作戦: 図書館員の本当のお話, マーク・アラン・スタマティー作/徳永里砂訳/図書刊行会, 2012.12		010.2281-St1s
選者 佐藤そと(シルバースタッフ)	戦争は破壊しかもたらさない。壊れたもの(命、心、歴史、文化etc)は二度と戻らない。正味わずか27ページのコミック。イラクで図書館の蔵書を焼失の危機から救ったアリーヤさんの実話。2003年、バスラに戦火が迫っていた。仕事と本をこよなく愛する図書館司書アリーヤさんは、昔外国の侵攻によって図書館が焼かれた自国の歴史を知り、「図書館を壊したいと思う人がいるなんて」と暗い気持ちに。戦争が始まれば図書館の蔵書が危機にさらされる！と不安をつのらせる。「民族、先祖、土地のかけがえのない記録の集成が消えてしまう！」と政府に蔵書の保護を訴えるも却下。ほどなく本当に戦争がやってきて、砲弾の雨降る混乱の中、アリーヤさんは3万冊を守るための行動を開始する…	
アレの名前大百科/みうらじゅん著, PHP研究所, 2010.10		031-A68
選者 佐藤そと(シルバースタッフ)	「名前を知りたいのは本能&ボンノウ」と始まる、変なものマニアのみうらじゅんが放つ106のアレの名前。世の中に名前のないモノはないというが、知らなくても別にどうってことなく暮らせるのに、その「どうってことない」にあえて挑んだトンデモ本。例えば1つめの「食パンの袋の口をとめる凱旋門みたいなアレ」。食パンでおなじみのC形のアレは誰でも知っているが、さて名前は？の人は多い。かく言う推薦者の私もその一人だった(答えはヒ・ミ・ツ)。第2問。「本のしおりになるヒモ」の名前は？まさに「本能&ボンノウ」による不可抗力のお導きで一気に読破。「へえ」の連発を保証します。とはいえ、雑学のひげらかしは鼻につくもの。博学自慢はほどほどに。ラスト問題。「ひじ先をぶつけたときにビリビリするアレ」の名前は？	
自分の軸で生きる練習 / 大仲千華, 大和書房, 2020.6		141.5-O65j
選者 にゃん子。(カウンタースタッフ)	「チュートリアル」はゲーマーならなじみ深い冒頭に出てくる操作説明のことだが、本来は個別指導を指す。オックスフォードの指導教育チュートリアルは、発表レポートに対し教授から質疑を受けて終わるという、答えの与えられない学びだ。膨大な調査と結論をまとめ、質疑応答にまみれる作業を繰り返す、思考とは一人ではできないこと、それ自体を学んでいく。答えのない状況に置かれた時、人は強いストレスを感じる実験結果がある。コロナや紛争、先が見えない世界の実情に面した時、短期間なら体力と意志で乗り切れるが、平素から検証を重ね続ける思考法と、軸となる自分という人物の理解が必要ではないか？本書は著者の半生で示すコーチング書なので、刺さる人には刺さる本だが、かつての著者のように完璧主義でネガティブになりやすい人にこそ読んでほしい。ひどい失敗談はその人物の強みや特性の一面という点に、短所を直すより活用するきっかけをもらった。	
自己責任という暴力 / 齋藤雅俊, 未来社, 2020		151.2-Sa25j
選者 高島豊(専任職員)	コロナ禍が始まって3年目になっても、未だに感染者へのバッシングや、クラスターが起きた施設への過剰な非難が飛び交うことが少なくない。「感染拡大を防ぐ」、「他人に感染させない」を錦の御旗のように、若者に生きる喜びや楽しみを我慢することを強いる風潮が蔓延している。「世間に顔向けできないようなことは慎む」ことが、日本人の美德として古くから貴ばれ、それに背いた人は社会からバッシングを受け、村八分にされることも珍しくない。人々は、このような扱いを受けないために、目立たず、人の流れに逆らわないように行動する。しかし、このような態度は世界からは奇異の目が向けられていることをご存じだろうか。本書は、みのもんたや、イラク人質事件の被害者など、世間から強烈なバッシングを受けた人たちが、社会や、或いは国家から、いかに理不尽な扱いを受けたかを振り返り、日本人特有の同調圧力の怖ろしさについて解き明かす。	

<p>女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと / 西原理恵子, KADOKAWA, 2017/6/2</p>	<p>159.6-Sa17o</p>
<p>選者 おとこいし(カウンタースタッフ)</p> <p>自分が娘時代に出会ったかった本です。本当にその通りだなんて思うことばかりで、あつという間に読めません。女性が生きて行くうえで越えなくてはならない壁や困難に対して正しく乗り越えていく為の指南書のような感じです。「自分の幸せを人に任せない…」などの心に刺さる言葉や文章がいっぱい！ぜひ！男女問わず読んでもらいたい良書です(^)/</p>	
<p>川柳にみる戦時下の世相/教科書に書かれなかった戦争Part11/高崎隆治選著, 梨の木舎, 1991.7</p>	<p>210.75-Ky4-11</p>
<p>選者 佐藤そと(シルバースタッフ)</p> <p>最近、言論の自由の危機を強く感じる。例えば香港。言論と権利が急速冷凍され、「権力者は国民の自由が大嫌いで、言論の自由とはなんともろいものか」と思った人も多いだろう。世界には言論・情報統制の国が多々ある。共通点は戦争を肯定する独裁国。かつて日本も『信ずべき新聞がない暗い国』だった。本書は大日本帝国が国民に服従と忍耐と飢餓を強いた時代の川柳誌から、目を皿にしてホンネを集めた労作(1句ごとに解説付き)。選者は「表現の自由がないどころか、まかりまちがえば非国民とか国賊とかのレッテルを貼られて暗い場所に放り込まれるような時代に、風刺や洒落や滑稽といった川柳の本質とも言える精神を抱き抱き続けるのは、かなりむずかしいことである」と書く。命がけの投句は戦争の実相を映し、言論の自由なきところに戦争あり、警告する。『長期戦餌にも劣る米を食い』『校門は営門まで続いていた』(営門＝軍隊)、『主婦の友もう御化粧の秘訣なし』(女性誌から化粧の記事消滅)・・・望みますか？そんな世の中。</p>	
<p>花殺し月の殺人：インディアン連続怪死事件とFBIの誕生 / デイヴィッド・グラン著, 早川書房, 2018</p>	<p>253.73-G77h</p>
<p>選者 (カウンタースタッフ)</p> <p>アメリカ先住民オセージ族は、オクラホマ州へ強制的に移住させられた。だが、何とそこには石油が眠っており、追いやられた先住民は一転して高額のロイヤリティを得るようになった！ そういった大金持ちの被差別人種がどういう運命を辿るか？ 答えは、「白人に謀殺されてろくに調査もされない」。</p> <p>FBIの前身組織によって動かぬ証拠を掴まれ、「オセージ族を20余人殺害した罪」で有罪にしようとするも、当時の差別感情が邪魔をする。軽すぎる罪状は……、ここから先はぜひ読んで確かめてほしい。ノンフィクションだという事実で胃が重くなる。</p>	
<p>地名の世界地図 / 21世紀研究会編/文藝春秋/2020.9</p>	<p>290.34-C45</p>
<p>選者 (事務スタッフ)</p> <p>世界各地の地名に込められた意味を知ることのできる一冊です。 日本人にとって外国の地名は、よく意味のわからないカタカナの羅列のように感じられますが、日本の地名に意味があるように外国の地名にも意味があり、それぞれの歴史や文化に紐づいていることがこの本を読むとよくわかります。 地名の由来となっている言語についても触れられていて、過去に存在した国やその地域の歴史、文化など様々な背景を知ることができ、地名から知ることのできる情報の多さに驚かされます。知っている国はもちろん、知らなかった国も名前のルーツを知ること身近に感じることができ、この本で読んだ地名がニュースなどで出てくると、なんだかよく理解できる気がします。 後半には100ページにも及ぶ大索引がついているので、この索引を辞典のようにパラパラと読むだけでも楽しむことができオススメです。</p>	
<p>憎しみに抗って：不純なものへの賛歌 / カロリン・エムケ(浅井晶子訳), みすず書房, 2018</p>	<p>316.8-E52n</p>
<p>選者 山本淳</p> <p>「正しい」という言葉を疑い、「不純」とみなされるものを愛することがなぜ大切なのか。分断が進み集団的憎悪が増幅する現代に、それに抗う可能性を探る。</p>	
<p>凶解超早わかり18歳成人と法律 / 南部義典著, シーアンドアール研究所, 2019.2</p>	<p>324.11-N48z</p>
<p>選者 (専任職員)</p> <p>2022年4月から、成人年齢が18歳に引き下げられます。「何が変わるの？何が変わらないの？」を正しく理解して、トラブルに巻き込まれない『大人』を目指しましょう。</p>	

教養として知っておきたい33の経済理論 / 大村大次郎, 彩図社, 2020.5	331-O64k
選者 (専任職員)	
<p>経済学や経済理論などについて、簡潔に分かりやすく解説した本。昔から最新の経済理論まで幅広くカバーされています。私自身も「聞いたことはあるけど、詳しく知らなかった」様々な理論について、しっかりと学ぶことができました。文章も堅苦しくないの、内容もスッと入ります。これから経済を学ぶ学生さんにも、ぜひおすすめしたい1冊です。</p>	
「学力」の経済学 / 中室牧子著 / ディスカヴァー・トゥエンティワン / 2015.6	371.3-N37g
選者 りんご紅茶(専任職員)	
<p>専門家の意見で定説となっても、データやエビデンスから見ると？ 経済学に素養のない私ですが、「学力」という誰もが一度は身近に感じたテーマについて、経済学の眼鏡を通してみるとこんな風に見えるのか、と新鮮な発見をくれた一冊。 「補論 なぜ、教育に実験が必要なのか」の「エビデンスの階層」や「リンゴとオレンジ:比較できない2つのもの」の解説はわかりやすく、学生の皆さんにもぜひ読んでいただきたいおすすめの本です。</p>	
大学生学びのハンドブック: 勉強法がよくわかる! (5訂版) / 世界思想社編集部編, 世界思想社, 2021.2	377.15-D16x5
選者 (専任職員)	
<p>2008年の初版から改訂を重ねたタイトルの最新版。高校と大学との学び方の違いについて、丁寧に解説されています。大学生生活に不安のある方、必見です！</p>	
世界のへんな肉 / 白石あづさ, 新潮社, 2019	383.8-Sh821s
選者 (カウンタースタッフ)	
<p>へんな肉を食べてみたいが、お腹を壊したくない。そんなジレンマを解消してくれるのが本書です。 著者は世界各地でへんな肉をたくさん食べています。変の定義は人によって様々でしょうが、牛を聖獣とするヒンドゥー教徒が大半を占めるインドにて、恐れ多くもビーフカレーを食す行為は一步間違えると冒瀆になりかねない。他人事ながら心配になります。(諸事情により禁忌を潜り抜けた脱法ビーフなので問題はないらしいです) へんな肉への好奇心がある方だけでなく、世界各地の食文化に興味がある方にもお勧めです。</p>	
アイヌと神々の物語: 炉端で聞いたウエペケレ / 萱野茂著, 山と溪谷社, 2020.4	388.11-Ka98a
選者 (専任職員)	
<p>消滅の危機に瀕している、あるいは既に失われた言語や文化は少なくありません。日本においても、アイヌ語権太方言のネイティブ話者は絶え、その言語や文化を保持するための研究や活動が進められています。 アイヌとはなにか。彼らは何を信じ、語り継いできたのか。同じ日本に生きていながら、多くの日本人はアイヌ民族への理解が十分ではないと考えます。 本書ではアイヌ民族に伝わる数々の昔ばなしが紹介され、各話に図入りの解説が付いています。言語や日用品、生活様式についても丁寧に語られており、アイヌ民族の世界をより深く堪能できます。物語の面白さはもちろん、その言語や文化、習俗の理解に大いに役立つ一冊です。</p>	
リアルサイズ古生物図鑑: 古生物のサイズが実感できる! 中生代編 / 土屋健, 技術評論社, 2018.8	457-Ts32r-2
選者 にゃん子。(カウンタースタッフ)	
<p>こんな約30cmの本にリアルサイズ(実寸大)の恐竜が入るわけない。タイトルを見てそう思いませんでしたか？ 私は思いきりツッコんでいました。 でも、開いたら超面白かった。ナニコレ。 25mってどれくらい？ と聞かれても思い浮かぶのは学校のプールくらいです。 でも本書では、モササウルスの体長が15mという知識は必要ありません。 中国の鵜飼がボートに見立てた海竜モササウルスを漕いでいるからです。 首長竜のギラファティタンはアーチ状の太鼓橋、錦帯橋の上まで頭が届きます。 また別の場所では、サッカーの試合に飛び込んだ小型肉食恐竜が選手を制しヘディングをかましています。 恐竜を現代社会に出現させることで実際のサイズを体感させてくれる本書は、群馬県立自然史博物館監修ということで博物学データも確認できます。温泉郷や座布団などが出てきてそのあたりも日本人にはリアル。 「中生代編」の他、「古生代編」「新生代編」もありますよ。</p>	

夜と霧 / ヴィクトール・E.フランク [著]; 池田香代子訳, 新版, みすず書房, 2002	493.7-F44y2
選者 山本淳	
<p>学生時代に読んだ本書を、コロナ禍の中で再読。「大切なのは<私たちが人生に何を期待するか>ではなく、<人生が私たちに何を期待しているか>」という言葉は、改めて心に響く。</p>	
橋を楽しむ / 平野暉雄, 日本写真企画, 2014.3	515.02-H66h
選者 にゃん子。(カウンタースタッフ)	
<p>名所と言われる風格や風情ある橋の写真集は数多ありますが、本書の最大の特徴は時代別に橋を紹介している点です。</p>	
<p>古くは万葉集に詠まれた天然の石橋や、飛鳥・奈良時代から戦国、江戸期を経て平成までを網羅。やはり近代の橋の方が、時代の古い橋に比べて数が多いようです。</p>	
<p>一度は見てみたい熊本県の通潤橋は(p42、江戸後期、アーチ水路石橋、76.3m)、その時代相当な覚悟で建造されたようですが、中央の側壁からほとぼしる泥抜き放水は圧巻で、今や観光名所となっています。</p>	
<p>個人的には、見過ごしてしまいそうな霊仙寺の無明橋(p61)をご覧頂きたい。おそらく2枚の石柱を両側から倒して造られた石桁橋は、幅40cmで高所にありながら柵も欄干もありません。</p>	
<p>一風変わったものから威風堂々とした橋まで、時代をめぐりながら日本の橋梁技術の高さに酔いしれる一冊です。</p>	
<p>最終章に忽然と現れる中国、韓国の古代橋には趣の異なる文化が漂います。</p>	
90s～2010sサンリオのデザイン / グラフィック社編集部編, グラフィック社, 2020.12	589.7-Ky8
選者 (カウンタースタッフ)	
<p>ハローキティ、キキララ、マイメロ、ポムポムプリン、ぐでたま、、、、サンリオのキャラクター、いくつ知っていますか？私は、子どものころは特に身の回りのものはサンリオグッズが多かったです。そういう方、意外と多いのではないのでしょうか？</p>	
<p>サンリオが誕生したのは、今から60年前。山梨県の物産品を扱う「山梨シルクセンター」としてスタートしたそうです。</p>	
<p>60年もの間、サンリオにはたくさんのキャラクターが誕生しました。世界的にも有名なもの、残念ながらほとんどお目にかかれなかったもの、見たことはあったけれどサンリオとは知らなかったもの。こちらの本には歴史からキャラクター紹介、歴代のグッズなど サンリオのことを詳しく知ることができます。ページをめくると「このキャラクター、昔好きだったな♡」「このグッズ、持ってた♪」など、一瞬で懐かしい気持ちになりました。表紙もとても可愛いので、眺めているのも楽しいですよ。</p>	
旅するお菓子 / 山本ゆりこ, 星雲社, 2011.6	596.3-Y31t
選者 にゃん子。(カウンタースタッフ)	
<p>どちらかと言うとお菓子で旅するヨーロッパ！とタイトルコールしたいスイーツレシピ本です。伝統料理と同じようにスイーツにも各国(各地方)の特色が表れていて、味わいや素材の傾向に気づかされます。</p>	
<p>ヨーロッパ各地を4つのカテゴリに分けて語られる現地のお菓子事情は、まるで旅行記。パリで製菓を学んだ著者は、各地の定番スイーツを日本で入手しやすい素材にアレンジして再現したレシピを紹介しています。</p>	
<p>どれもシンプルなのにキュートでおいしそう！ コラムのような「日本で買えるヨーロッパのお菓子」には、輸入品店などで見かける外国製のお菓子が載っているの、興味のある方は必見です。</p>	
<p>惜しむらくは素材と手順だけのシンプルなレシピが、お菓子作りの初心者にはちょっとハードかも。でも、海外に行けない今、甘い誘惑に乗って外国に行った気分を味わえる本です！</p>	
<p>(表紙カバーも素敵なのでOPAC(蔵書検索)に画像を載せてほしいです～！)</p>	
21匹のネコがさっくり教えるアート史 / ニア・グールド著・絵; 上杉隼人訳, すばる舎リンクージ, 2019.6	702.3-G73n
選者 (専任職員)	
<p>古代エジプト美術からヤング・ブリティッシュ・アーティストまで、アートの歴史を21匹のネコたちが分かりやすく解説し、案内してくれます。</p>	
<p>タイトルでは「さっくり」とうたっていますが、各美術運動の特徴を優しい言葉で簡潔に、けれども丁寧に説明してくれるので、アート初心者の方にこそ手に取ってほしい一冊です。</p>	
<p>どのページもカラフルで目を引く作品がたくさん並び、パラパラとめくるだけでも楽しい気持ちになってきます。</p>	
<p>どんな素材で色を塗り、どんな意図を以てその線を引きいたのか、理解できればより深く作品を味わうことができるでしょう。</p>	

<p>「問い」から始めるアート思考 / 吉井仁実著, 光文社, 2021.12</p>	<p>704-Y88t</p>
<p>選者 図書館職員 M.K(専任職員)</p> <p>最近、「アート思考」という言葉を目にすることが多くなりました。 アート思考とは、物事の考え方にアーティスト(芸術家)の思考法=作品を生み出すプロセス を取り入れて新たな価値を想像することや、革新的なアイデアを発想することだと言われています。 本書は、アートギャラリーを運営し、山梨県の清春芸術村の理事長を務めるなど現代アートの第一線で活動する吉井氏が、バンクシーや落合陽一、会田誠、Chim↑Pom、石上純也ら現代アーティストの創作活動が、いったい何を社会に投げかけているのかを解説しています。そして、アート・アート思考とは、その投げかけ=「問い」を自ら作り出して多くの人に伝わるように表現することであり、重要なのは「解決」ではなく「問い」の中にある、と結んでいます。 現代アートを鑑賞してみたいが見方がよくわからない、という方や、自分なりのものの考え方を見つけない、という方におすすめします。</p>	
<p>バウハウス百年百図譜 / 伊藤俊治著, Book & Design, 2021.12</p>	<p>707-I89b</p>
<p>選者 図書館職員 M.K(専任職員)</p> <p>「バウハウス」は1919年にドイツ/ヴァイマルに創立された総合造形学校です。 活動期間はわずか14年と短いものですが、建築・デザイン分野のみならず、ひとつの文化現象として、近代の社会や生活全般に大きな影響を及ぼしました。 本書は「百年百図譜」のタイトルの通り、創立から現在に至る100年の間に出版された、バウハウスのマスター(教員)達が執筆した図書や、後世の解説書をはじめ、写真集、展覧会のカタログ、バウハウスの校舎が置かれた Dessau 市の観光パンフレットに至るまでの資料が紹介され、バウハウスの教育や思想・哲学、当時のドイツの都市構想、バウハウスに留学した日本人、そして、現代への影響などが綴られています。 解説もさることながら、紹介されている「図譜」も魅力的なもので、機会があれば読んでみたいものが多数ありました。20世紀の芸術や近現代ドイツ史に興味のある方に手に取っていただければと思います。</p>	
<p>古くて美しいもの / 関美香, 平凡社, 2010.12</p>	<p>709.3-Se24f</p>
<p>選者 にゃん子。(カウンタースタッフ)</p> <p>骨董は数居の高いものかもしれませんが。 骨董とひと口に言っても、土器、仏像、茶器、掛軸、書画、裂と色々なジャンルがあり、さらに素材や時代によって区分が細分化されます。 何が自分になじみ深いのか。 不思議と心魅かれるものがあるかもしれない。 こむずかしい知識は横に置いておいて、さまざまな分野の古美術品を眺められる本書を、古きものと出会う窓口として推薦します。</p>	
<p>ものがたりの家：吉田誠治美術設定集 / 吉田誠治著, パイインターナショナル, 2020.7</p>	<p>726.5-Y861m</p>
<p>選者 (カウンタースタッフ)</p> <p>地下に船着き場がある世捨て人の家、芝生でできたギャングの家、巨大な岩を壁がわりに設えた老婆の家……間取りとインテリアとそこに住む人の設定集、ただし物語は読者にゆだねられています。 住むならどこ？と複数人で読むのも楽しそう。図書館で働く一員としては、家じゅうが本棚になっている『階段堂書店』に骨をうずめたいですね。</p>	
<p>楽譜を読むチカラ / ゲルハルト・マンテル著 ; 久保田慶一訳/音楽之友社, 2011.11</p>	<p>760.7-Ma48g</p>
<p>選者 雑誌情報係S(事務スタッフ)</p> <p>著者は、チェリストで教育者でもあるゲルハルト・マンテル氏。この本は楽譜そのものの読み方を説明・解説しているというより、普段の練習にすぐ取り入れられる具体的な方法が書かれている。例えば練習や演奏する際の心構え、イメージの膨らませ方、ミスをした時の対処法(そこから何を学ぶか)、行き詰った時にはどうしたらよいかなど、目についた章を読むだけでも大変勉強になる。文章だけだとピンとこなくても具体的な譜例がたくさん載っているのでイメージしやすく、読んでいてワクワクしてくる本である。この春から楽器を始めようと考えている人には特におすすめしたい。</p>	
<p>静寂から音楽が生まれる / アンドラーシュ・シフ, 春秋社, 2019</p>	<p>767.347-Sc3Ys</p>
<p>選者 高島豊(専任職員)</p> <p>「はじめに静寂があり、静寂から音楽が生まれ、その後、ふたたび静寂が戻ってくる。」 世界屈指のピアニストであるアンドラーシュ・シフが音楽の本質について語る言葉は、哲学的とも云えます。インタビュー形式で語られるシフの言葉は、ピアノ作品だけでなく、更には音楽に留まらず、芸術全般の本質を語り、崇高で、普遍的なシフの演奏が生まれる源泉へと導いてくれます。バッハやモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトと云った、シフがとりわけ神がかり的な演奏を聴かせる作品についてのエッセイも、ピアノを弾く人たちだけでなく、これらの音楽を愛好する全ての人々にとってかけがえのない大切なメッセージとなっています。</p>	

細野晴臣：録音術：ぼくらはこうして音をつくってきた / 鈴木惣一朗著，DU book，2015.12	767.8-H95Ys
<p>選者 雑誌情報係S(事務スタッフ)</p> <p>2019年に音楽活動50周年を迎え、現在も精力的に活動している細野さんの、1970年代～2010年代に録音された作品の『音づくり』に焦点を当てた本。レコーディングに参加したエンジニアや細野さん本人へのインタビュー、当時のトラックシート(多重録音する際、各トラックにどんなサウンドが録音されているのかを書き留めておくシート)や写真等の貴重な資料の数々で構成されている。特にトラックシートには使用した楽器や機材、ボーカルやコーラスの割り当て等が事細かに記されていて興味深く、曲の構造や細野さんの頭の中をほんの少し覗けるような気がしてしまう。かなりマニアックな内容ではあるが、用語解説やコラムも充実しており読み始めると止まらない。全ての音楽ファンにおすすめできる本。</p>	
翻訳できない世界のことば / エラ・フランシス・サンダース，創元社，2016.4	804-Sa62h
<p>選者 (事務スタッフ)</p> <p>しみじみと「ことば」っておもしろいなあと感じられる一冊です。言葉のイメージができる素敵なイラストとともに、世界中の「翻訳できないことば」が紹介されています。その言語ならではの文化を感じられる言葉もあれば、すぐく腑に落ちる言葉もあり、これまで言葉にできなかった言葉を知ると世界が少し広がって、知っている人だけの秘密の言葉のように感じられ、使ってみたくくなります。いくつか日本語も紹介されていて、何気なく使っている言葉も世界から見ると「翻訳できないことば」だと知ると、おもしろくもあり、大切にしたいなとも感じます。言語を学ぶことで「なるほど」と、より理解できるようになる言葉もあるので、ぜひ言語を学ぶことを楽しむきっかけにいただきたい本です。私のお気に入り、ドイツ語の「KABEL SALAT カーベルザラート(めっちゃめっちゃにもつれたケーブルのこと)」です。</p>	
滑走路：歌集 / 萩原慎一郎著，KADOKAWA，2017	911.168-H13k
<p>選者 山本淳</p> <p>若いころの、寄る辺なく、恥ずかしく、情けない日々、でも顔を上げて生きようともがいていた日々の、あの空気が蘇る(いまも、たいして変わっていないかも)。</p>	
図書室 / 岸政彦著，新潮社，2019	913.6-Ki562t
<p>選者 山本淳</p> <p>失われていくものへのやさしく、研ぎ澄まされたまなざし。同じ著者の『断片的なものの社会学』(朝日出版社)2015年もお薦め。</p>	
春や春/森明子著，光文社文庫，2017.5	913.6-Mo72h
<p>選者 佐藤そと(シルバースタッフ)</p> <p>俳句は楽しい。TV「プレバト！」を視ると「落ち続けても、けなされても、なぜ挑み続けるのか」と思う。答えは簡単、俳句は楽しいからだ。小説は「書く」、詩は「作る」、俳句は「ひねる」と言う。「書く・作る」はともかく、「ひねる」ってなんだ？本書は俳句甲子園に挑戦する女子高校生たちを活写した青春小説。俳句をめぐる国語教師との対立をきっかけに俳句甲子園を目指すことにした主人公に、鋭敏な音感、書道、論理的な弁舌など、様々な個性的な才能の持ち主が結集する(俳句バトルに必要な能力と追々明らかになる)。この前半だけで充分ワクワクものだが、俳句の基本・魅力、作句・良い句のポイントなども自然に分かってくる。登場人物への共感と同時に、自分も作ってみよう、と思わせる展開が巧みだ。地区予選そして本大会。頂点を目指す俳句甲子園が始まる。チームは栄冠に輝くか？疾走する四国松山の夏！『夕焼と競い合ひたる息荒し』…俳句は楽しい！</p>	
コンビニ人間 / 村田沙耶香著，文藝春秋，2016	913.6-Mu591c
<p>選者 山本淳</p> <p>ゼミの卒業生に薦められて読んだ本。実に奇妙で、実にリアル。カフカの世界にも通じるか。</p>	
i(アイ) / 西加奈子，ポプラ社，2016.11	913.6-N812i
<p>選者 深瀬 充央(専任職員)</p> <p>『絶対、世界にアイはある』</p> <p>アメリカ人の父と日本人の母のもとへ、養子としてシリアからやってきた主人公の「ワイルド曾田アイ」。内戦、テロ、貧困、自然災害など世界は悲しいニュースであふれている。そんな中で、自分はどのように悲劇の外側にいるのか。優しい両親と豊かで安全な暮らしという恵まれた環境で生きている自分自身を肯定できず、アイは苦しみます。けれどやがてアイは、親友と出会い、愛する人と家族になり、ひとりの女性として自らの手で人生を切り拓いていきます。たとえ理解できなくても、愛することはできる。世界を変えられないとしても、想うことはできる。自分に自信のない人、存在意義が分からなくて悩んでいる人、生きている意味が見出せない人の背中を押してくれるような物語です。</p>	

横道世之介 / 吉田修一, 毎日新聞社, 2009.9	913.6-Y861y
<p>選者 深瀬 充央(専任職員)</p> <p>物語の舞台は1980年代。長崎県の港町から大学進学のために上京してきたお人好しの青年「横道世之介」。彼を取り巻く多くの友人や世間知らずなお嬢様の恋人に囲まれながら大学生活を謳歌する様子を描く群像劇です。1987年4月から1988年3月までの世之介の1年間の描写に加え、16年後の2003年から周囲の人間が世之介を振り返る構成となっています。普通の男子大学生のなんてことない日常、涙なしでは見られないラストシーン。大学生活が愛おしく感じるような心温まるストーリーです。高良健吾主演で映画化もされているので、併せてチェックしてみてください。</p>	
地獄の楽しみ方 / 京極夏彦, 講談社, 2019.11	914.6-Ky3j
<p>選者 にゃん子。(カウンタースタッフ)</p> <p>会話には音がある。声や表情に気配、多くの情報を得ていても50%くらいしか伝わっていないとか、受け取れていないのだろうなと感じる。 では、文字だけのやり取りの意思疎通の成功率はどれほどだろうか？ ——考えただけでそら恐ろしい。 本書のテーマは「言葉」。本来「今」しかない動物と違い、人は言葉で「時」という概念を得たという。その一方、同じ言葉も人によってイメージが異なり、言葉によって固定されることで、常に「言葉」は欠落と齟齬を生むのだという。 喋ることや書くことが苦手なのではなく、「言葉」そのものが行き違う性質を備えているのだとしたら？ SNSがあっけなく炎上するのもうなずけると思った。 本書はミステリー&直木賞作家の京極夏彦氏が「17歳の特別教室」に招かれ、講義した内容をまとめた中高生向けの教養書になる。 先日3/15文庫化しAmazonのベストセラー1位になった。 今までの言葉のイメージや認識を打ち砕かれてほしい。</p>	
悪人礼賛：中野好夫エッセイ集 / 中野好夫著；安野光雅編 筑摩書房, 1990.12	914.6-N39a
<p>選者 (専任職員)</p> <p>『悪人礼賛』というタイトルのインパクト、「ぼくの最も嫌いなものは、善意と純情との2つにつきる」という印象的な書き出しで始まるエッセイですが、内容は、人間関係を築いていくうえで、心掛ける点など、著者の中西さんのメッセージが込められているものとなっております。読んで心に残った作品だったため、ぜひおすすめしたい一冊です。</p>	
旅の窓 / 沢木耕太郎, 幻冬舎, 2013.4	914.6-Sa94t
<p>選者 にゃん子。(カウンタースタッフ)</p> <p>世界の各地で著者は取材を行い写真を撮っている。 沢木耕太郎という人を知らなかった私は、装丁を見て写真集だと思い、中を開いて写真に寄せた詩集かその逆だろうと予想した。 はっとするような写真の数々のかたわらにあるのはその写真の記憶だった。 著者はプロのカメラマンではないらしいことが徐々にわかってくる。取材対象とは別に旅先でフィルムにおさまった写真たちに、エッセイを添えた連載がやがて本書となった。 肩の力の抜けた自然体の言葉がリアルで、なぜこんなに印象深く共感させられるのか、と思う。 実体験をありのまま見つめるまなざしは、各地で心惹かれる景色を見つけていく。壮大な風景の中に、人の営みの中に、ふとした仕草の中に。 沢木氏は大宅壮一ノンフィクション賞を受賞しているノンフィクション作家とのことだ。</p>	
私とあなたのあいだ：いま、この国で生きるということ / 温又柔, 木村友祐著 / 明石書店 / 2020.10	915.6-O651w
<p>選者 りんご紅茶(専任職員)</p> <p>生きづらさや閉塞感を感じる社会の中で、その意識や志向を共有することで強くなるつながりや希望、そして人と人とがあって、集って、直接言葉を交わすことが難しくなった日常の中で、言葉を書いて届けることの確かさ、温かさ、力強さを感じた1冊。二人の芥川賞候補作家が交わす、往復書簡。</p>	
Harry Potter and the cursed child : parts one and two/J.K. Rowling, John Tiffany & Jack Thorne/Sphere, 2017	932-T511h
<p>選者 (専任職員)</p> <p>ハリーポッターシリーズファンの私にとっては「待望の新作」だったので、とても印象に残っている1冊です。『ハリー・ポッターと死の秘宝』での戦いから19年が経ち、父親となったハリーが2人目の子どもをホグワーツ魔法学校へと送り出した、その後の物語となっています。この本は小説ではなく、舞台脚本を書籍化したものなので、いつもとはまた違った感覚で読み進めることができ、とても新鮮でした。今年7月からは、日本で舞台化もされるようなので、この機会にぜひおすすめしたい1冊です。</p>	

半分のぼった黄色い太陽 / チママンダ・ソグズィ・アディーチェ著, 河出書房新社, 2010.8	933-A161h
選者 (専任職員)	
<p>“私たちが死んだとき世界は沈黙していた” 作中何度も繰り返されるこの一文に、何を感じますか。 舞台は約60年前のナイジェリア。本書はラブストーリーを軸にその悲惨な戦争の細部を丁寧に描いています。当時、イギリスから独立したばかりのその国では、民族間・地域間の対立が絶えませんでした。度重なる虐殺とクーデターの末に、イボ人が民族集団を形成していた東部州は一つの共和国として分離独立を宣言し、これにより勃発したビアフラ戦争には、石油資源に対する利権が絡んでいました。連邦軍によるビアフラの包囲、封鎖が始まってからの戦況は凄惨を極めます。封鎖に伴う物流の遮断、人道支援に対する連邦の妨害行為により、ビアフラでは100万人以上が飢餓に陥り犠牲になったと言われています。歴史の教科書にたった数行綴られる戦禍の中、人間として懸命に日々を生きていく主人公たちに胸を打たれる傑作です。</p>	
影を呑んだ少女 / フランシス・ハーディング, 東京創元社, 2020.6	933-H324k
選者 じゃん子。(カウンタースタッフ)	
<p>少女は孤独だ。 ただ一匹の「クマ」を除いて。 17世紀の英国、実際にあった革命の内乱を背景に、不滅の死者に支配された一族の物語が幕を開ける。出生を知らない少女メイクピースは母と二人、親類に身を寄せぎこちなく生きていた。愛情に飢えながら反発心のせいで唐突に母との関係は崩れ去る。 替わりに少女を迎えた亡き父の家には目的があり、メイクピースはいつか来る、物としての運命から逃れようとあがく。 強情で疑り深く抜け目ない主人公は、可憐なヒロイン像からは程遠いが、裏切られ過酷な仕打ちを受けながらも、体当たりで自分の未来を切り拓こうとする不屈さに「がんばれメイクピース！」しか言葉が出てこない。 その度に彼女は傷つき、痛みと引き換えに確かなものとそうでないものを選び取った。 一族とは別の形でその力を振るう少女の、幼少から15歳を描いたダークファンタジー。 運命から逃げる闘争は、相棒のクマや仲間と共に反撃のうなりと化す。</p>	
モリー先生との火曜日 (愛蔵版) / ミッチ・アルボム著; 別宮貞徳訳 / NHK出版 / 2018.1	936-A411m-N
選者 りんご紅茶(専任職員)	
<p>コロナ禍の中で自粛生活で、久しぶりに手に取った一冊。スポーツコラムニストのミッチが、偶然テレビで見かけた大学時代の恩師モリーは難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)に侵されていた。16年ぶりの再会。死を間際にして、毎週火曜日の二人だけの講義が始まる。 愛蔵版は、『モリー先生との火曜日』(NHK出版、1998年刊)に、原書の20周年版(2017年刊)に収録された著者あとがきと、新たな訳者あとがきが加筆されたもの。 かけがえのない大学生活での出会いが、皆さんの人生にとってより良いものでありますように。</p>	
ペスト:カミュ全集4 / アルベール・カミュ著, 新潮社, 1972.12	958-C14A-4
選者 佐藤そと(シルバースタッフ)	
<p>本書はコロナ禍で再注目され、既読の方も多と思われる。この長編はペストの流行で封鎖された都市に閉じ込められた人々の物語。1940年代、アルジェリアの港町で、ある医師が鼠の死体を発見。死骸は増え続け、次いで人間に謎の熱病が蔓延。ペストの発生だ。町はロックダウンされ陸の孤島に。病死者が増える中、苦闘する人間ドラマが展開する。物語には医療体制の弱点や行政のオタオタなど、コロナ禍の現代と重なる点が多い。小説のキモは「外部と遮断された孤立状態の中で、必死に『悪』と闘う市民たちの姿を年代記風に描くことで人間性を蝕む『不条理』と直面した時に示される人間」(文庫版要約)にある。『不条理』を矛盾だらけの常ならぬ状態、と意識すれば、私達も『不条理』の中にいる。三密回避、移動自粛、真夏もマスク、遠隔授業などなど、with Coronaを余儀なくされ、キャンパスライフの要=コミュニケーションの場がない。さて未来は?…生きるヒント、何がしかの答えを探してみては。</p>	
アルネ / ビョルンソン作; 小林英夫訳 岩波書店, 1975	B-949.6-B51
選者 犬のおまわりさん(専任職員)	
<p>ノルウェーの代表的作家ビョルンソンによって1859年に書かれた、「多感な少年アルネ」の物語です。なんといってもこの物語の背景であるノルウェーの山村の描写が素晴らしく、清涼な風や谷の水の冷たさ、湖水の清らかさまでもが伝わってくるようです。 そしてところどころに登場する「歌」や「民謡」が物語を美しく縁取ります。 その中でも「そこやかしこになにをみえぬ あの山を越え峯を超え…」で始まるアルネの詩は田舎でくすぶっていた私に勇気を与えてくれました。 アルネの内面の成長と少女エリに対する思慕とともに描かれた「和解」にも心動かされました。 美しい風景と素朴な人々が描かれた、私にとっては宝物のような物語です。</p>	

風車小屋だより / ドーデー作 ; 桜田佐訳 , 岩波書店 , 2021.7	B-953-D45f2
<p>選者 犬のおまわりさん(専任職員)</p> <p>『風車小屋だより』はドーデーの故郷であるプロヴァンスを舞台にした悲喜こもごもの24の物語が収められた短編集です。 この作品は1879年つまり150年ほど前に書かれているので時代がかった表現や描写も多いのですが、行間から漂ってくる馨しいプロヴァンスの香りをどのように例えたらよいのでしょうか。プロヴァンス地方の美しい風物とともに描かれる物語はユーモアと詩情にあふれていて、読み終えるのがもったいないような気持ちになります。 私の好きな物語は「コルニーユ親方の秘密」「星」「法王の驃馬」「詩人ミストラル」「三つの読唱ミサ」「コーシェー神父の保命酒」等 この中でも特に「三つの読唱ミサ」は貪食の罪を犯すバラゲール僧正の物語で、食い意地が張っている私のお気に入りです。(自戒を込めて)</p>	
おばあさん / ニェムツォヴァー作 ; 栗栖継訳 岩波書店 , 1971	B-989.53-N64
<p>選者 犬のおまわりさん(専任職員)</p> <p>100年以上経った今でもチェコの人々に愛読されているチェコの女性作家ニェムツォヴァーによる1856年の作品です。 美しいチェコの農村文化の象徴そのものような「おばあさん」は、ドイツ貴族に使える娘の家族と住むために屋敷に引っ越してきますが、屋敷のルールを農村風に改めようとします。最初反発していた人々もおばあさんに夢中になり、家の中も万事差配を心得たおばあさんの前に、「すべておばあさんのことばどおりに」動くようになります。そして、おばあさんはその知恵と度量、鋭い洞察と心の強さで地域に溶け込み、多くの人にとってなくてはならぬ存在になっていきます。 さまざまなエピソードが語られますが、おばあさんの祖国愛や平等主義には今の時代にも通じるものがあり、チェコの人々に愛される理由がわかります。 予定調和的な話が多く「おとぎ話」的な感じですが将来こんなお年寄りになりたいと思わせてくれます。</p>	

獨協大学図書館 2022.3.28